

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 20年4月－欧米向けを中心に輸出が急減

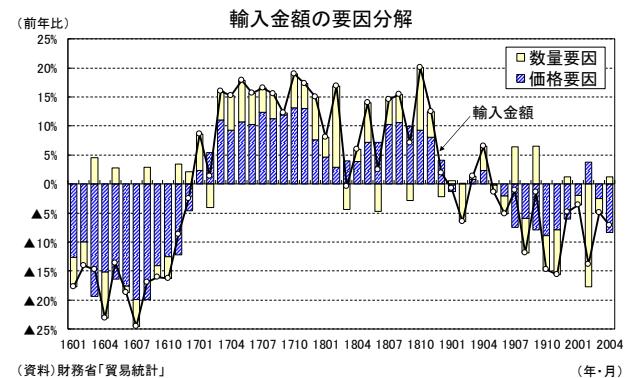
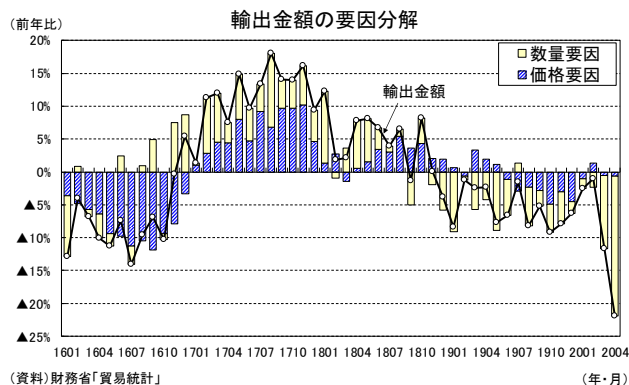
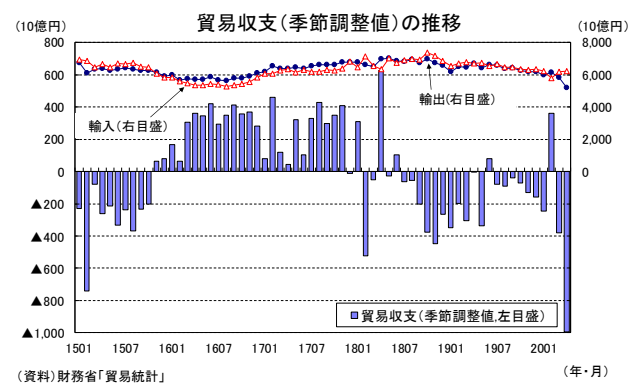
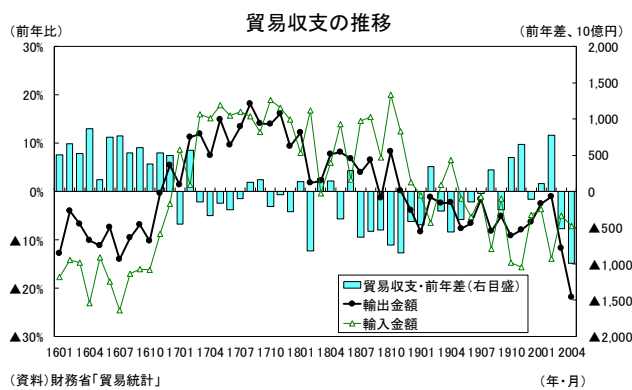
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)の赤字幅が急拡大

財務省が5月21日に公表した貿易統計によると、20年4月の貿易収支は▲9,304億円の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲4,600億円、当社予想は▲6,796億円）を下回る結果となった。輸出入ともに減少したが、輸出の減少幅（3月：前年比▲11.7%→4月：同▲21.9%）が、輸入の減少幅（3月：前年比▲5.0%→同▲7.2%）を大きく上回ったため、貿易収支は前年に比べ▲9,894億円の悪化となった。

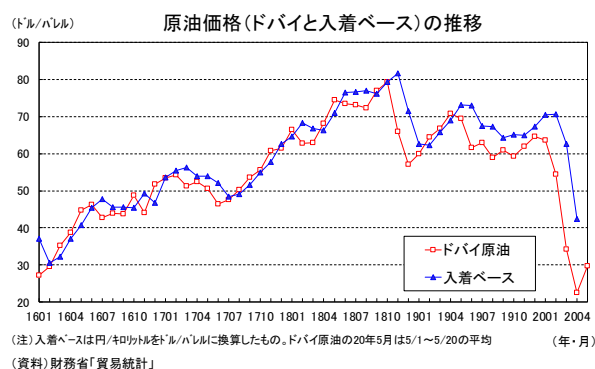
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲21.4%（3月：同▲11.2%）、輸出価格が前年比▲0.7%（3月：同▲0.6%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比1.3%（3月：同▲2.5%）、輸入価格が前年比▲8.4%（3月：同▲2.5%）であった。



季節調整値の貿易収支は▲9,963億円と2ヵ月連続の赤字となり、3月の▲3,809億円から赤字幅

が大きく拡大した。輸出が前月比▲10.4%の大幅減少となる一方、輸入が同0.2%の増加となった。

4月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル＝42.4ドル（当研究所による試算値）となり、3月の62.6ドルから大幅に低下した。原油価格（ドバイ）は4月に20ドル台前半（月平均）まで下落した後、足元では30ドル台前半まで持ち直している。通関ベースの原油価格は5月には30ドル程度まで低下した後、緩やかに上昇することが見込まれる。

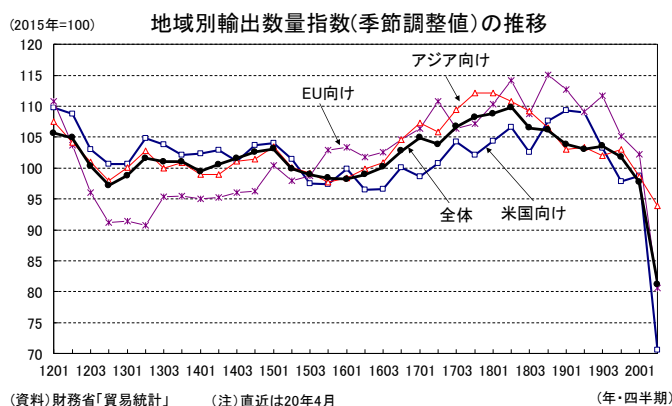


2. 輸出は欧米向けが急減する一方、中国向けは持ち直し

20年4月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲36.8%（3月：同▲15.9%）、EU向けが前年比▲27.7%（3月：同▲9.1%）、アジア向けが前年比▲11.8%（3月：同▲10.5%）、うち中国向けが前年比▲2.4%（3月：同▲10.3%）となった。

20年4月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前月比▲22.1%（3月：同▲13.3%）、EU向けが前月比▲21.4%（3月：同0.7%）、アジア向けが前月比0.7%（3月：同▲8.2%）、中国向けが前月比10.7%（3月：同▲9.4%）、全体では前月比▲15.7%（3月：同▲2.4%）となった。

多くの国で都市封鎖が行われていた欧米向けが急激に落ち込む一方、アジア向けは中国の経済活動の再開、工場の再稼働が早かったこともあり、中国を中心に持ち直しの動きとなった。ここにきて欧米でも経済活動再開の動きが出ているため、輸出は数ヶ月のうちに底打ちする可能性が高い。ただし、世界的に経済活動の水準が元に戻るまでには時間を要するため、輸出の回復ペースは急激な落ち込みの後としては鈍いものにとどまるだろう。



20年1-3月期のGDP統計では、訪日客の急減を反映しサービスの輸出が前期比▲19.1%の大幅減少となる一方、財の輸出は同▲2.3%と小幅な減少でとどまった（財貨・サービスの輸出は前期比▲6.0%）が、4-6月期は財輸出の減少幅が急拡大する可能性が高い。現時点では、4-6月の財貨・サービスの輸出は、財、サービスともに急激に落ち込むことから、前期比▲20%台後半の減少を予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。